

2022年7月5日(火)の岐阜新聞、中日新聞に
 当社と朝日大学の産学連携協定についての記事が掲載されました。

<岐阜新聞>



産学連携協定を結んだ大友克之学長(右)と中村源次郎会長(瑞穂市穂積、朝日大)

「プロポリス」の 製法開発で連携

朝日大と秋田屋本店協定

朝日大(瑞穂市穂積)と養蜂・食品製造の「秋田屋本店」(岐阜市加納富士町)は4日、地域産業の発展や人材育成を目指す産学連携協定を結んだ。同社は同大歯学部と共同研究を進め、

ミツバチが巣作りで生成する「プロポリス」を使った新製品開発に取り組む。

プロポリスは、ミツバチが巣を作る際、集めた樹脂と自身の酵素成分を混ぜ合わせた固形物で、巣を菌やウイルスから守る作用がある。抗菌効果が注目されており、両者の共同研究により、虫歯や歯周病の予防に効果のある製品の開発が期

待される。

同大で行われた締結式で、大友克之学長は「地域の産業に貢献することを誓う」、同社の中村源次郎会長は「共同研究の成果を全国に発信し、健康増進に寄与したい」とあいさつした。式典後、歯学部の教授のプレゼンテーションがあり、プロポリスに関する研究実績を報告した。(稲葉亮)

<中日新聞>

共同研究や製品開発
産学連携協定を締結
朝日大と秋田屋本店
瑞穂市の朝日大と岐阜市の養蜂業「秋田屋本店」は四日、産学連携協定を締結した。
協定では、市民の健康増進や地域産業の振興、共同研究、製品開発やマーケティングなどにおける連携を規定している。両者は二〇一八年ごろから、ミツバチ



書類に署名、調印した大友学長(右)と中村会長(瑞穂市の朝日大で)

の分泌液と樹脂などを混ぜた樹脂状の物質「プロポリス」の抗菌作用について、歯科医療などに応用する研究を共同で行っていた。

この日は朝日大で調印式があり、大友克之学長と秋

田屋本店の中村源次郎会長が書類に署名、調印した。大友学長は「締結を機に、秋田屋本店さまとともに、一層地域の産業の発展に貢献したい」と話し、中村会長は「地域社会への貢献を目指し、さらに共同研究の成果を全国、世界へ発信し、人々の健康増進に寄与したい」と心えた。

(名倉航平)